



## 「被災地と多摩地域の架け橋」

2月8日(水)～12日(日)、イオンモール多摩平の森にて、大学生ボランティア活動展&イベント2017「被災地と多摩地域の架け橋」が開催されました。

今回で3回目になるこのイベントには、多摩地区6大学と日野市の中学生に加え、協力団体として日野市ボランティア・センターと八王子市ボランティアセンターも参加しました。このイベントでは、東北や熊本などの被災地にてボランティア活動を行った団体による、その活動をまとめたパネル展やスライドを用いた発表が行われました。また、被災地を応援するための物産展や、防災について考えるさまざまなゲームも催されました。

本学からは、「ふくしまスタディーツアー」に参加した本センターの学生コーディネーターと、岩手県大槌町で活動を行っているボランティア団体「東日本きずなプロジェクト」、「災害復興・都市防災研究室(市古研究室)」が参加し、パネル展とスライド発表を行いました。

### ● パネル展示とスライド発表

「ふくしまスタディーツアー」に参加した学生コーディネーターは、福島県の風評払拭と風化防止に向けた県の取り組みと、自ら考えた取り組みについて発表しました。福島県会津地方の取り組みとして大きく取り上げられたのは、古い建築物のリノベーションを通じたまちづくりでした。古ビルをリノベーションしてペレットストーブ販売店やヨガ教室などにした建物、旧市庁舎をサテライトオフィスにした例などが挙げられました。また、自ら考えた取り組みとしては、福島県に愛着を持ってもらうための企画として、

参加型の観光「X change Festival」が提案されました。

東日本きずなプロジェクトは、今年で2回目の参加。東北と首都圏の「人」をつなげ、両者間に「きずな」が生まれるような活動に取り組んでいる団体です。岩手県大槌町で行ったスタディーツアーや、都市部で行った募金活動、大学祭での物販などの活動が紹介されました。パネル展示には大槌町出身の地域の方も訪れ、「継続的に行っていることが“忘れられていない”と感じて嬉しい」という感想をいただいたようです。

災害復興・都市防災研究室は、自然災害被害を最小化し、被害が生じた際も回復力をもった建築・都市空間の計画論構築を目指している研究室です。今回のパネル展では、被災地での再建住宅地デザインワークショップなどに加え、八王子で大地震が起こる場合に備えた復興訓練を行う様子が紹介されました。スライド発表は研究室に所属する大学院生が担当。伊豆大島でのmy減災マップの作成等について紹介がありました。

### ● 今回の活動を振り返って

今回のイベントでは、自分たち以外の方の発表を聞いたり、防災ゲームの運営をする機会もありました。そのため、他の団体がどういった活動をしているのかを知る機会にもなりました。彼らの活動が、今後さらに飛躍していくきっかけとなるイベントだったのではないのでしょうか。

## 第3回大学生ボランティア活動展&イベント2017 「被災地と多摩地域の架け橋」

2017/2/8-12



### パネル展示にて説明を行う様子

パネル展を訪れた地域の方に、自分たちの活動や研究内容について説明している様子。立ち止まって話を聞いてくださる方は、皆熱心に耳を傾けてくださいました。



### 防災ゲーム体験会の様子

日野市ボランティア・センターが提供してくださった「カエルキャラバン」にて、家屋の下敷きになってしまったカエル君を助け出す子どもたちと、サポートしている本学の学生。困難な救出作業を手助けしてくれる身の回りの道具や技について学ぶことができるゲームです。